# 日本聖公会「原発のない世界を求める国際協議会」声明に賛同する件

提出者　正義と平和委員会

日本聖公会「原発のない世界を求める国際協議会」の声明に賛同する。

【提案理由】

日本聖公会は、2018年6月の第64(定期)総会決議第29号「原発のない世界を求める国際協議会」開催の件に基づき、2012年日本聖公会第59(定期)総会決議第13号「原発のない世界を求めて～原子力発電に対する日本聖公会の立場～」の具現化を目指し、2019年5月に仙台において、「原発のない世界を求める国際協議会」を開催した。この協議会で採択された「原発のない世界を求める国際協議会」声明をうけて、日本聖公会が脱原発と自然エネルギーへの転換を目指すために、総会として下記の声明に賛同することを提案する。

---

## 日本聖公会「原発のない世界を求める国際協議会」声明

日本聖公会は、2012年の第59(定期)総会決議「原発のない世界を求めてー原子力発電に対する日本聖公会の立場ー」、および同年の日本聖公会宣教協議会「いのち、尊厳限りないもの」で原子力発電に対する姿勢を明確にしました。その具現化のために、2019年5月28日から31日まで、仙台基督教会および茂庭荘を会場にして、11教区の信徒、教区主教を含む聖職と、英国・米国・韓国・台湾・フィリピン各聖公会からの参加者、および日本キリスト教協議会平和・核問題委員会、そして管区正義と平和委員会、管区事務所各主事、実行委員、スチュワードを含む総勢68名が一堂に会し、「原発のない世界を求める国際協議会」を開催しました。

基調講演(仙台基督教会・一般公開)はドイツからミランダ・シュラーズ氏を招き、「エネルギー政策の大転換をしたドイツから」と題して、第二講演は川上直哉牧師から「十字架ヲ通ッテ光へ～苦難の中からの声・惨禍の中の祈り」と題して、また、台湾(賴榮信ライ・ロンシン主教)、韓国(金基錫 キム・ギソク司祭)、日本(相澤牧人司祭)からの発題を受け、二度にわたるグループシェアリングを通して原発のない世界を求めるための学び、語り合いの時を持ちました。そして、参加者一同は、以下の声明を採択し、呼びかけます。

### いのちの尊さを確認し、そのいのちを生きるために
### ～原発のない世界を求めて～

2011年3月11日の東日本大震災によって発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故やその被害は、それまでの安全神話を完全に打ち砕き、原子力発電は極めて危険なものであることを気づかせました。私たちはこの原子力発電の問題をいのちの尊厳から捉えることが、極めて大切であると考えています。

原子力発電は稼働する限り危険な放射性廃棄物を生み出し続けます。本当の安全とは何か。いのちあるものが生きる上での安全とは、危険な廃棄物をこれ以上増やさないということでしょう。また、原子力発電を考える時、「核兵器」と「原子力発電」は「一つのコインの裏と表」であり、その技術はいつでも核兵器への転用が可能であることを意味し、平和に生きる権利を脅かします。

これ以上原子力発電に依存する経済優先の社会を続けるべきではなく、そのためには節電・省エネに取り組むことはもちろん、再生可能エネルギーへの政策転換を行い、新たな道を歩むべきでしょう。原子力発電は電気を作り出す過程の中で、地球温暖化の原因ともなっています。また、原発事故は起きると取り返しがつかず、他のどんなエネルギー源よりも危険であることを私たちは再認識しました。8年がたった今も深刻な影響が残る一方、時が経つにつれ被災された方々の痛みや苦難を忘れがちな私たちがいます。原発のない世界を求める国際協議会特祷の中で「わたしたちはあなたによって委ねられた被造物を治めよ とのご命令に背き、自然資源を乱用し、原発事故によって自然と人びとの生活を破壊しています。どうか、これらの罪をお赦しください。わたしたちがあなたの愛に立ち帰り、苦難の中にある人びとをおぼえ、あらゆるいのちと共生できる原発のない世界を造りだす知恵と力をお与えください」と祈りました。

原子力発電から解放された世界を目指す旅をし、「フクシマの出来事の証言者」であり続けていくために、私たちは以下のことを呼びかけます。

- 東日本大震災がもたらしているさまざまな出来事を見つめ、証しし続けること。
- 原発事故が起きれば、取り返しのつかない事態になることを認識し続けること。
- 日本聖公会に「福島週間(仮称)」を創設し、“あの出来事”が語ることを聴き、学び、いのちを尊び、平和に生きる社会の実現へと歩み続けること。
- 脱原発のための国内外のネットワークを強化・充実させること。
- 未来を受け継ぐ次世代のために、原発による負の遺産をこれ以上残さないこと。
- 各教区に自然エネルギーによるモデル教会をつくり、方向性を指し示すこと。
- 各個教会が自然エネルギーへ転換する時の融資制度を、日本聖公会に設けること。
- 宣教の5指標の一つである「被造物の本来の姿を守り、地球の生命を維持・再生するために努力すること」に具体的に取り組むこと。

これらを通して原発のない世界を求める歩みを続けて行こうではありませんか。

荒れ野で叫ぶ者の声がする。「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。」

(マルコによる福音書 第1章3節)

2019年5月31日

日本聖公会「原発のない世界を求める国際協議会」参加者一同